

地域とともに



社会医療法人 健和会
健和会病院
KENWAKAI



病気・障害だけでなく、生活全体を支える

健和会病院は、病気や障害を抱えた方たちの治療やリハビリをすることはもちろんですが、それ以外にも、貧困・高齢・独居・一人親・外国人・性的マイノリティなどの困難を抱えた方や、病院に来ることすらできない方とも向き合います。

「健康の社会的決定要因(SDH)」が注目されています。病気や障害は、社会的な要因の影響が大きく、そこまで踏み込まないと、本当に病気を治し健康づくりをすることはできません。

だれも置き去りにされることなく、必要な医療・介護が受けられるように、当院では無料低額診療や

食料物資支援などを行っています。差額ベッド料も徴収しません。また、NPO法人の協力を得て通院手段の確保を行っています。制度や社会のあり方を変えるための活動も行います。さらに、国際HPHネットワークに加盟し、伊那谷健康友の会などの活動を通して、地域の健康増進活動も行っています。

健和会病院は1973年「本当に患者の立場に立った病院を住民の力で作ろう」と、地域住民が資金を出し合って設立した病院であり、当時からこうした医療を追求してきました。





住み慣れた地域での「自分らしい生活」を支える



健和会病院は、子どもから高齢者まで、急性期から回復期・リハビリ・在宅まで対応する「ケアミックス型病院」です。中でも「在宅療養を支える」ことを重視しています。

在宅部門の中心になっているのが、健和会医療介護総合センターです。現在200人の患者さんの訪問診療をしています。訪問看護・訪問リハビリ・訪問介護・デイサービス・居宅介護支援も行っており、サービス付き高齢者向け住宅も併設しています。

在宅患者さんの具合が悪くなった時は、健和会病院の急性期病棟・地域包括ケア病棟・回復期リハビリ病棟・療養病棟で治療・リハビリを行います。

かやの木診療所は、伊賀良・山本などの地域の患者さんのかかりつけとして医療を行っています。

私たちの強みは「総合力」であると考えています。

いろいろな職種・様々な施設が、その方の「自分らしい生活」を支えます。

私たちが大事にしていることは、

患者さんが、どんな生活をしてきたのか、

何を望んでいるのか、

その人の生活や背景までを見て支えることです。

■ 地域連携室

患者さんが自分の病態に適した医療機関で医療サービスを受けることができるように、地域の医療機関・介護施設と連携する窓口です。

■ 相談室

社会的、経済的な問題の相談にのっています。

専任看護師とソーシャルワーカー(社会福祉士)が、在宅から入退院後の療養生活まで、様々な問題を把握し、支援しています。

■ 健和会医療介護総合センター



飯田中央診療所
訪問診療専門の診療所です。
24時間365日安心安全の療養生活をサポートしています。



訪問看護ステーション
利用者さんの願いに耳を傾け、住み慣れた自宅で、安心して療養できるようにお手伝いしています。



デイサービスセンター
日常生活動作の維持向上、認知機能の低下予防、交流、入浴など、様々な目的をもって利用されています。
心のふれあいを大切にするデイサービスです。

ヘルパーステーション
在宅で自立した日常生活が送れるように、生活全般(排泄・入浴・食事・調理・掃除・買い物等)を支援しています。

特定在宅総合支援センター
利用者さんの望まれる在宅生活に合わせた介護保険サービス(医療・福祉サービス)を利用できるよう計画し支援しています。

かなえの里
医療と介護の連携により、安心・安全にそのひとらしく生活できるサービス付き高齢者向け住宅です。

■ かやの木診療所



1997年開院。内科・消化器科・小児科。

近くの旭ヶ丘中学校にある、かやの木の太木(飯田市天然記念物)にあやかり、「大地に根を張り枝葉を広げるように」という思いで名づけられました。

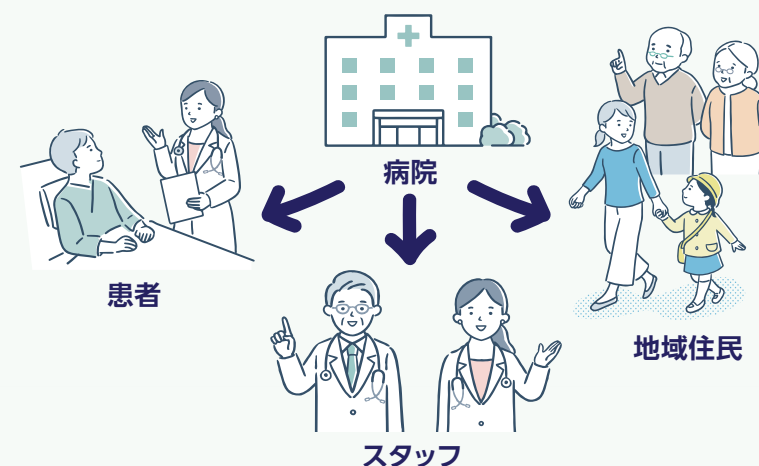
介護事業も併せて展開しており、デイサービスを併設して行っております。





地域住民の皆さんとともに健康づくりを 「安心して住み続けられる まちづくり」を目指して

■ HPH として



HPHとは「Health Promoting Hospital(健康増進活動拠点病院)」の略で、ヘルスプロモーションを実践するためにWHO(世界保健機関)が始めた病院の世界的ネットワークです。ヘルスプロモーションとは、「自らの健康とその決定要因をコントロールする能力を高め、自らの健康を改善できるようにするプロセス」であり、患者・住民・職員に対して働きかけています。

■ 「伊那谷健康友の会」とともに



伊那谷健康友の会(会員約1万2千人)と連携して地域の文化祭などで体力測定やフレイルチェックを行っています。



約90の班が班会を開催し、健康チェック・健康学習・おしゃべり交流を行っています。



目的別に「バランスボール班会」「ポッチャ班会」「子育て友の会」などがあります。



「病院のパートナー」として、出資や病院周辺の清掃、車いすの寄付など病院を支えています。

患者さんの入院時に社会的背景を聞き取り、カンファレンスで検討することや無料低額診療事業の活用と周知を行っています。

地域住民には、大型スーパー店舗内や飯田やまびこマーチでの体力測定と運動指導を行っています。

職員には、体力測定、健診結果説明会、歩数イベント、サラダ販売企画などを行っています。

「健和会健康まつり」は ふれあいの場

毎年開催される健康まつりは、健康チェックや医療講演、展示だけでなく、地域の子どもや友の会員によるステージ企画など盛り沢山です。特に、医師による医局座公演は、とても親しみを感じると好評です。



健和会医師の劇団。
毎年、「健和会健康まつり」のトリをかざる。



困ったら 健和会へ

体調が悪いのに「お金がないから」と受診をあきらめる方は少なくありません。そのために手遅れで亡くなった痛恨の事例を私たちは経験しています。「困った。どこに相談したらいいんだろう」という時、病気のことだけでなく、幅広く私たちが相談にのります。



■ ソーシャルワーカーが相談にのります

ソーシャルワーカー（社会福祉士）が利用できる制度や相談窓口を紹介したり、場合によっては行政機関などへ同行・同席します。

■ 差額ベッド料はいただきません

室料差額（差額ベッド料）を一切徴収していません。現在の医療の仕組みでは、室料差額をとらないと経営は非常に厳しいのですが、経済的に困難な方も含めて命と健康を守るためにそうしています。



■ 無料・低額診療

「無料・低額診療事業」とは、経済的な理由で、必要な医療が受けられないことがないよう、無料または低額で診療を行うものです。健和会病院は2011年9月から実施しています。

■ 職員ネットワークで食料・物資支援

患者さんから食料・学用品・電子家電など「〇〇がなくて困っている」「〇〇が欲しい」という声が聞かれたとき、そのつど職員へ呼びかけて集めて提供しています。お米は職員や地域の方から寄せられたものをストックし、いつでもお渡しできるようにしています。

飯田から 全国へ、 世界へ、発信

飯田は「公共交通機関を使って行ったときに東京から一番遠い町」と言われます。そんな山の中からでも、全国・世界に誇れる研究や実践を発信しています。著書・論文執筆のほか、講演・学会発表も数多く行っています。



2017 年
日本ヘリコバクター学会
上原 H.pylori 賞優秀賞
消化器内科 塚平俊久医師



2018 年
日本超音波医学会奨励賞
消化器内科 小林奈津子医師



2018 年
日本リハビリテーション医学会
最優秀論文賞
リハビリテーション科 福村直毅医師

■ 活躍する女性医師

健和会病院の医師構成で約3割が女性医師です。

年齢構成は様々ですが、それぞれのライフイベントに応じた多様な働き方ができます。また、女性医師専用の部屋もあり、休憩や自己研鑽など自由に使用できます。

■ 働きやすい職場を目指して

働く職員を支える制度の一部を紹介します。

福利厚生

- ・病児保育施設有
- ・未満児保育料補助（女性 70%、男性 35%補助）
- ・延長保育料補助
- ・育児期間中の短時間労働制度
- ・住宅手当等

メンタルヘルスケア・カウンセラーと契約し
定期相談会も開催しています。

特別休暇、育児・介護休業

結婚休暇・出産休暇・病気休暇・
生理休暇・リフレッシュ休暇（永年
勤続者に与えられる休暇）等
男性職員の育児休業も広がって
います。



共済組合

組合員の福利増進を目的として、組合員に
様々な場面で給付を行う相互扶助の団体。

- ・慶弔金（結婚・出産・入学等）
- ・見舞金（傷病・死亡等）
- ・医療費共済補助等

サークル活動助成金や施設利用料
補助、文化・スポーツ活動への補
助もあります。



子育て世代だけでなく、
誰もが働きやすい職場です！



あらゆる困難に 各専門が**連携**して 向き合います



■ 腎・透析内科

80床(県内2番目の規模)の透析では、夜間・日曜・週4回の透析、さらに在宅での血液透析・腹膜透析も行うなど、患者さんの生活や病状に合わせて様々な形で透析を行っています。また糖尿病外来・慢性腎臓病外来を行い予防にも力を入れています。



腎生検

腎臓の一部を針で採取し病理診断を行います。腎臓病の最も正確な診断ができます。腎・透析内科 原悠太医師が行っています。

在宅血液透析

自宅で自分で穿刺し機械を操作して施行。自分の都合に合わせてできる・食事制限がないなどのメリットがあります。全国で800人程度が行っており、当院では現在数名利用されています。

私はこんな
仕事をしています

臨床検査技師

検体を調べるのがメインです。最近はコロナの抗原検査が多いです。患者さんと直接かわることは少ないですが、検体を見ることで症状が分かり他職種に協力できます。



酒井 渉

臨床工学技士

「病院の電気屋さん」と呼ばれ日々進化する医療機器を扱う仕事です。医療をかげで支えています。医療×工業に興味がある方にはお勧めの職種です。



吉山 和希

認定看護師

感染管理

感染管理認定看護師は、「感染症にかからないようにするにはどうしたらよいのか」を、指導・教育します。対象は、医療従事者以外にも、介護従事者、学生、患者・家族・地域の人々など多岐にわたります。



関島 香

外来看護師

循環器の専門チームに配属されて現在勉強中です。安定している患者さんを悪化させないように、心不全の療養指導なども行います。



牛山 美智子

認定看護師

認知症看護



坂井 純子

外来担当

認知症のご本人やご家族の様々な相談に応じ、地域との連携や生活の工夫の助言をします。



鳴澤 智子

病棟担当

チームで病棟を巡回し認知症の方への対応を病棟スタッフと共に考えています。

■ 循環器内科

心臓カテーテル検査やペースメーカー植え込み術・カテーテルアブレーションなどの専門的な治療を行う一方、すべての在宅患者さんを定期的に往診し、心不全患者さんの終末期を支えることにも力を入れています。

カテーテルアブレーション

心房細動など頻脈性不整脈の原因になっている部分を、心筋もろとも焼き切って治します。循環器内科 小平睦月医師が行っています。



■ 消化器内科

胃カメラ・大腸カメラ・腹部エコーなどの検査を駆使して、胃や腸、肝臓、膵臓などの疾患の早期発見・早期治療に努めています。



経鼻内視鏡

口ではなく鼻から管を入れる胃カメラ。苦痛も少なく胃カメラ中も会話ができます。消化器内科 吾川弘之医師がスペシャリスト。

NHPH
non-Helicobacter pylori
Helicobacter の略。胃がんの原因となるピロリ菌以外のヘリコバクター属の細菌の総称です。塚平俊久医師が病理科との連携で研究し、日本で最も多くの症例を報告。



■ 総合診療科

ひとことでいうと「何でも診る科」もしくは「すきま内科」です。何が原因でその症状が出ているのかわからない患者さんの診療や、初診外来・内科系ER(救急室)も担当します。





外科

消化器を中心に幅広い疾患の外科的治療を行っています。
常勤病理医がいるため術中病理診断も行えます。悪性疾患の化学療法や緩和ケアにも力を入れています。



ALTA 療法

内痔核（いぼ痔）を切らずに治す治療法。術後の痛みがほとんどありません。外科 本田晴康医師が行います。

乳腺外来

外科の本田晴康医師・赤澤智之医師が担当。
乳腺エコー・マンモグラフィーは女性技師が行います。

泌尿器科

高齢者の夜間頻尿や尿失禁などが増えており、そうしたことを中心に取り組んでいます。

麻酔科

手術にあたって、安全・安心な麻酔がかけられるように心がけています。

形成外科

皮膚腫瘍を中心とする形成外科一般のほか、透析のシャント作成、慢性創傷治療（褥瘡・糖尿病壊疽など）やフットケアなどに取り組んでいます。



病理科

病理は「縁の下の力持ち」ともいえる部門です。常勤の病理科医がいるのは、この規模の病院では珍しく、当院では特に臨床医とのカンファレンスに重点をおいています。



放射線技師

前島 野乃香

一般撮影やCT検査、マンモグラフィ検査などの検査を行います。冠動脈の治療や※TACEを行う時は、医師をはじめ多職種が集まります。治療を迅速に確実に行うために日々のコミュニケーションが重要です。

※TACE：動脈に薬剤を注入して、肝がんを壊死させる治療法。

薬剤師

桃原 萌

調剤や服薬指導、入院患者さんの薬の管理や服薬セット・混注もします。多職種のカンファレンスにも参加します。病院の薬剤師だと比較的時間に追われないため患者さんとしっかり話ができます。

栄養士

田中 麻美

栄養指導や給食管理などのほかに、在宅で食事が必要な方へお弁当を提供しています。ニュークックチル方式を導入していることで、より安全安心な食事提供ができます。

介護福祉士

牧内 正子

事務職員として20年程働いた後、再度患者様と関わる仕事がしたいと思い介護福祉士になりました。民医連は自分の想いと近いところがあり働きやすく、職場をみんなで作っていきける環境なのがいいです。

病棟看護師

勝又 純一

入職した当時は男性看護師が少なくて心細かったですが、今は男性が増えてきてうれしいです。病棟の主任をしていますが、新人が成長している姿を見ると達成感を感じます。

認定看護師

皮膚排泄ケア

林 洋子

褥瘡の発生予防・発生後のケア、人工肛門や排泄、失禁について考え快適な生活が送れるようにお手伝いしています。



完全側臥位法

嚥下障害の患者さんが完全に横になって食事をすることで、経口摂取ができるようになります。リハビリ科 福村直毅医師が開発し全国に広がっています。

リハビリテーション (作業療法士 / デイケア)

加納 あさみ

デイケア利用者のリハビリはもちろん、送迎やトイレ介助、食事の準備などの身の回りのお手伝いもします。リハビリ以外の時間も歩くなどの運動する機会を設けられるようにして、利用者さんの生活を支えています。

リハビリテーション (理学療法士 / 訪問リハビリ)

白鳥 翔太

訪問リハビリでは利用者さんの家にうかがって生活に合わせたリハビリをしたり、住みやすい環境を整えたりします。退院後の利用者さんがやりたいと思ったことを支援していくことが楽しいです。

リハビリテーション (言語聴覚士)

古瀬 小菜未

言葉の訓練や、食事をしっかり食べられるようになるためのリハビリをしています。嚥下障害治療で来ている患者様が多いです。患者さんやご家族から「良くなってきたよ」と言われると嬉しくなります。

子どもから高齢者まで全世代に関わります。単なる機能訓練だけでなく、運転・復職・家事などを含めてその人らしく社会参加ができるようにすることに重点を置いています。

高次脳機能障害 拠点病院

自動車運転再開の取り組みはNHK「所さん！事件ですよ」で紹介。復職支援・長期的な外来支援も行い、同じ悩みを共有して孤立を防ぐため家族会を定期的に開催しています。



予防レンジャー

リハビリチームがYouTubeで配信。背筋トレーニング、肩痛予防など多くのメニューが好評です。



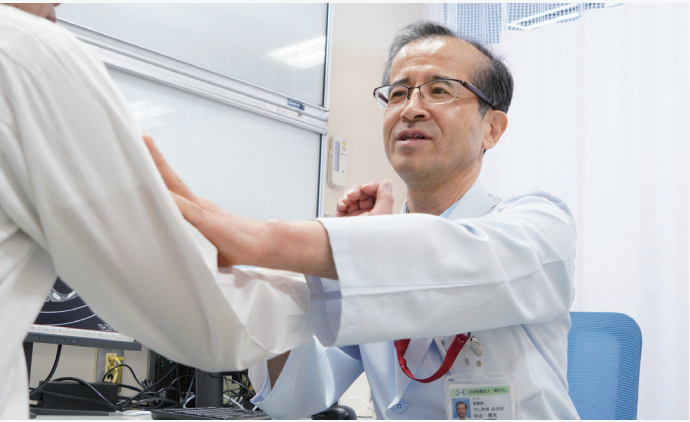
YouTube チャンネル

脳神経内科

パーキンソン病やALS(筋萎縮性側索硬化症)などの変性疾患、認知症などに取り組んでいます。高次脳機能障害支援拠点病院として、社会復帰や就労支援、運転再開支援に力を入れています。

ボトックス

ボツリヌス毒素から作られた注射薬。片側顔面けいれん・上下肢痙攣などに有効。エコーガイド下、電気刺激などを用いることで正確な施注を行うことができます。



脳神経外科

脳卒中の予防と治療、認知症などに取り組んでいます。

慢性硬膜下血腫の漢方治療

症状が軽い場合など、慢性硬膜下血腫でも手術ではなく、漢方薬での保存的治療ができる場合があります。北原正和医師が柴苓湯での治療を日本で初めて実施。

小児科

子どもの病気の多くは自然に治りますが、保護者はとても心配です。そうした不安を受け止め家庭でのケアを学んでもらうこと、子育ての相談に乗ること、それも私たちの役割です。アレルギー・心の問題・発達障害などにも力を入れています。



病児保育室おひさま はるる

飯田市の委託を受けて実施。重い病気ではないが登園・登校できない子どもの保育を行います。



食物負荷試験

実際に食品を食べてアレルギーがおきるかをみる検査。食物アレルギーの診断治療に不可欠。

ソーシャルワーカー (社会福祉士)

今村 三恵

療養中の患者さんの生活における困難さを良くするために一緒に考え、社会保障の制度を活用して相談支援を行います。無料低額診療を行っているため、お金がない方にも「まずは受診して」と言えます。子育て中ですが、急な体調不良でも柔軟に対応してくれる職場なのでありがたいです。

事務

総務課で施設や備品管理の仕事、医事課で保険請求などを経験し、現在は経理の仕事をしています。様々な部署での経験が今の仕事に役立っています。事務は様々な部署を経験します。そうすることで病院の組織のことや、お金の流れ、医材の価格などを知り、今の仕事に培われていきます。



服部 勇太

認定看護師

摂食嚥下

最期まで口から食べる楽しみを支えられるように、また肺炎・窒息・低栄養の予防ができるように摂食嚥下障害についての知識技術を普及しています。



福村 弘子

